

JCS NEWS

CONTENTS

- | | |
|-----------------|-------|
| 第 9 回 JCC 開催報告 | 2 - 5 |
| チェロの日 Promotion | 5 |
| マスタークラス 開催報告 | 6 - 7 |
| アウトリーチ実施報告 | 8 |
| チェロ・サロン開催報告 | |
| 事務局からのお知らせ | |

Junior Cello Camp

第9回 ジュニア・チェロ・キャンプ

開催報告



OUTREACH

AUGUST 20, 2025

@ 国立病院機構千葉医療センター



Steven Isserlis

マスタークラス 開催報告

Junior Cello Camp

第9回 ジュニア・チェロ・キャンプ

ご指導いただいた先生／参加者数

■ソロ演奏コース／8名

荻田 雅治先生、河野 文昭先生、堤 剛先生、山崎 伸子先生、

田中 英明先生、諸田 由里子先生（ピアニスト）

■アドバンスド・アンサンブルコース／20名

堀 了介先生、山本 裕康先生、梶原 葉子先生、佐藤 響先生

■ビギナーズ・アンサンブルコース／11名

中島 顕先生、内田 茉莉先生、田中 愛先生

Photo: ©藤本 崇



令和7年9月6日(土)、7日(日)に東京音楽大学 中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区)にて、第9回ジュニア・チェロ・キャンプ(以下JCC)を開催しました。今年も台風接近により一部の方の交通に影響があったものの、無事に予定していた参加者全員が集い、全3コースを実施することが叶いました。JCC会期中は、初日にアカデミー、2日目にアカデミー、リハーサル、発表会を実施し、会終了後に同会場で1時間程度の懇親の時間を設けました。

今年も全国各地から39名の小・中学生にご参加いただきました。発表会会場には、東京音楽大学TCMホールを初めて利用させていただき、チェロ協会会員の方にもご来場いただきました。発表会途中では、本年度よりチェロ協会副理事長に就任した河野文昭先生、同じく副理事長の山崎伸子先生によるサプライズ演奏も行われました。素晴らしい音響の中、二人の副理事長によるL・ボッケリーニ作曲(P・バズレール編)《2つのチェロのためのソナタハ長調G・74》の第1、第3楽章を参加者みなで鑑賞しました。緊張の様子だった子どもたちも、先生方の演奏に引き込まれ、自然と沢山の笑顔が溢れていました。会場のご提供、ご協力いただきました東京音楽大学の皆さまには、深く御礼を申し上げます。

小・中学生の中で、身近にチェロを弾く仲間がいることは多くないかもしれません。それでも、JCCを通してできた全国のお友達との絆が、演奏を試行錯誤し、生涯音楽を楽しむ一助となることを願っております。また今回は、参加関係者以外の会員にも発表会の鑑賞をいただいたほか、過去にJCCに参加された学生会員の方々にも運営にご協力もいただきました。今後も、チェロを愛する一員として見守り、仲間として迎え入れていただければ幸いです。第10回JCCで再びお目にかかれることを心よりお祈りしております。

VOICE

S-249 川村 未来

小学生の頃からソロコースで毎年参加させていただき、長い間ありがとうございます。私が初めてチェロキャンプに参加したのは小学四年生の時でした。それまでは音楽教室に通っていましたが同年代でチェロを弾いている人は少なく、とても寂しい気持ちがありました。ですがこのチェロキャンプというイベントに参加して、全国から集まったたくさんの歳が近いチェリストたちと交流できてチェロの新しい世界が大きく広がると同時に、発表会でエルガーやドヴォルザークの曲を演奏していた中学生に憧れ、「自分もあんな風に弾けるようになりたい」と思いました。六年間、チェロキャンプで偉大な先生方にご指導いただいた事、たくさんのチェロを弾いている子たちと交流できた事、今までこのイベントで学んだ全ての事を忘れない、これからもチェリストを目指して頑張りたいと思います。これまで関わってくださった全ての方へ感謝の気持ちでいっぱいです。

参加者の声

● 著名な先生方が気さくにお声をかけてくださって、先生方の音楽の世界を少しでも吸収したく、自分なりに一生懸命取り組みました。とても豊かで幸せな時間でした。

● 自分だけでアンサンブルの曲をひいているときとちがって合わせてみたら音が重なり合ってとてもきれいだと思いました。友達もできて楽しかったです。

● 知識として知っていたことも、実際に先生が演奏されたり、歌って下さった事で、今まで見えていなかった部分が、視界が広がったようにイメージ出来るようになりました。

● 懇親会は先生にどうしたらもっと良くなるか、というアドバイスをもらってすこくためにもなったし、普段関わったことのない人と交流できて良かったです。

● 初めて参加したのですが、楽しかった一言です。とにかく先生が優しかったです。こういったキャンプに参加できてよかったです。

● 素晴らしい先生方、素晴らしい環境の中で、チェロに集中できる時間をたくさん作っていただけ、とてもいいキャンプでした。

● 同じ曲でも人によって考え方が様々あるから、音楽は面白いと思った。

中島 顕 先生より



△開講式▽

皆さん、おはようございます。山崎先生のご挨拶と重なってしまいましたが、特にチェロという楽器の仲間は、繋がり为本に強いんです。自分は一入きりだと感じずに、みんなでアンサンブルなど演奏を楽しんでほしいと思います。頑張りましょうね。

私から一つだけお願いしたいことがあります。チェロにはエンドピンというものがあり、それは凶器にもなります。以前、飛行機に乗るときに「エンドピンを外してください」と言われて、荷物として預けたことがあります。エンドピンは、機内に持ち込めないほど危ないものなのです。チェロを演奏する人がいる家は、床が傷だらけになってしまふから困る、危ない、そのような理由でチェロを弾いては駄目だと言われないように、皆さんしっかり管理し、怪我しないようにしてください。キャンプ中、校舎内をすることなどしないで、気を付けて過ごしましょう。よろしくお願いします。

△閉講式▽

二日間ありがとうございました。今回、レッスンがあったという間に過ぎたように感じていて、いつも以上に楽しかったです。皆さん友達もできて、こういう環境が二日だけではなく、半年くらいずっと続いてほしいと思います。レッスンをしていたし、部屋でお稽古をしていた時の音と、ステージでの音が全然違ってましたね。皆さん自身も、それに気が付いていました。このようなホールで弾けた経験というのは、大きいと感じています。アドバンストクラスの演奏も聴かせてもらいましたが、最初の音が出た時点で「ああ、いい音だなあ」と思いました。また来年も演奏することを楽しみに参加してほしいと思います。どうもありがとうございました。

山本 裕康 先生より



△開講式▽

チェロの仲間というのは僕の年齢でもずっと続いていて、今も仲間を支えられています。ですから、ジュニア・チェロ・キャンプのような機会が、皆さんにとって本当に大切なことだと思っていて、ぜひこういう機会がたくさん仲間を作ってほしいと思います。

アンサンブルをするときチェロを横に置くことが多いと思いますが、僕自身は温厚な先生に習っていたのですが、その先生には一度だけ怒鳴られたことがあります。それはチェロを跨いだこと。その時は、ものすごく叱られました。チェロというのは、ちょっとしたことでも引っかけると倒れると、割れてしまいます。チェロを跨ぐということだけはしないでいただけたらと思います。そして、この学校の中は難しい迷路のようになっているので、一人では絶対出歩かないでください。迷うと戻ってこれないこともあるので、何か困ったことがあれば、スタッフや先生方に場所などを確認してください。では二日間、頑張りましょう。

△閉講式▽

最後に全員で合奏をしましたが、同じ舞台に立った人というのは、僕は全員仲間だと思っています。皆さんのことを友達だとも思っています。皆さん同士でも今後、学校や住む場所が違っていても、同じ仲間だと強く思っています。そういう友達がいると、そういう人たちに支えられていてほしいことを、いつも思い続けてほしいと願っています。そういう目的としても、このジュニア・チェロ・キャンプはとても重要な、年に一度だけの場だと思います。ぜひまた参加して、友達や仲間、チェロの仲間を増やす日になってほしいです。今回のアドバンストコースは、本当に短い期間でカノンとキャベツジダウという曲に取り組みましたが、レッスンの内容をきちんと演奏にすることができていました。またお会いできる日を楽しみにしています。ありがとうございました。

発表会プログラム

ソロの部

C.サン＝サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	小6（東京都）
D.ポッパー：チェロ協奏曲 第2番 第1楽章	小6（神奈川県）
E.ラロ：チェロ協奏曲 ニ短調 第3楽章	中1（東京都）
D.ポッパー：ハンガリー狂詩曲	中3（東京都）
J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第3番 プレリュード、アルマンド	中3（兵庫県）
R.シューマン：幻想小曲集より 第1曲、第3曲	中3（東京都）
L.ボッケリーニ：チェロソナタ 第6番 イ長調	中3（福岡県）
A.ドヴォルザーク：チェロ協奏曲 ロ短調 第1楽章	中3（東京都）

アンサンブルの部

1. ルドルフ・マツ：12のデュオより
ウィリアム・スター：Skip to My Lou
ビギナズ・アンサンブルコース
小2（東京都1名） 小3（東京都3名） 小4（東京都2名）
小5（東京都1名・福岡県1名） 小6（神奈川県1名・埼玉県1名） 中1（東京都1名）
2. パッヘルベル：カノン
アメリカ古謡：キャベツジダウ
アドバンスト・アンサンブルコース
小2（千葉県1名） 小3（愛知県2名）
小4（東京都1名・大阪府2名・神奈川県1名）
小5（東京都3名・和歌山県1名） 小6（東京都1名）
中1（神奈川県2名・新潟県1名・愛知県1名） 中2（山梨県2名・鳥取県1名）
中3（神奈川県1名）
3. ゴルターマン：セレナーデ
合同（ソロ・アドバンスト・講師）アンサンブル



アイスブレイク（質疑応答）の様子

保護者さまより

●指導してくださる先生方の声かけがほんとうにすばらしく、わかりやすく、むずかしさもあり、子供たちはもちろん私も自身も勉強させていたいた。最高の時間でした。

●勉強が忙しい毎日ですが、ジュニア・チェロ・キャンプに参加できる事を目標に、日々チェロの練習に取り組んで参りました。今回4回目の参加をさせて頂き、大変貴重なご指導を頂き、改めてチェロのアンサンブルの素晴らしさを体感でき、チェロが大好きになり、また来年のチェロ・キャンプに参加できる事を目標に、マイペースですがチェロの練習に励みたいと思います。今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

●チェロキャンプを終えてから息子が毎日のように、演奏が楽しい！早くジュニアオーケストラに入りたい！と話し、前向きに練習に取り組むようになり非常に嬉しく思っています。

●普段見ることのできないレッスンを拝聴して息子が大変感動しておりました。

堤剛先生より



△閉講式▽

今年も大変多くの皆様にご参加いただいたことは、非常に素晴らしいことだと思います。日本チェロ協会の主

目的の一つとして掲げている『チェロやチェリストの普及』が進んでいることを間近に感じ、裾野が広がっていることを大変嬉しく思います。今年にはビギナーズクラスを始め、皆様のレベルが非常に高くなったと思います。それはすなわち、チェロを弾く、音楽をするということが、「なにか特別なこと」ではなく「普通のこと」になってきており、日本語を話す、日本食を食べるといったように日常生活の一部になっていると言えると思います。それが、やがて楽器を弾いた時に自然と自分の音楽になるでしょう。今回、アンサンブルコースの皆様は本当に楽しそうに弾いていらつしやいましたし、ソロコースの皆様は、一人一人が素晴らしい、各々の才能を発揮されていました。この様子は、本当に色々な意味での拡がりの深さだと思っております。

今回、TCMホールをお借りできたことで、大変多くの保護者様、関係者様に聴きにきていただけたと思います。チェロを弾くというのは、とても大変なことです。練習する、楽器を揃えること等、他にも様々ありますが、保護者様の温かい、そして力強い励ましがあつてこそチェロを続けるのが可能になってくると思います。今日お集まりの皆様にも深く感謝したいと思います。

今日のプログラムを拝見しても、様々な国の様々な文化的背景があります。チェロを上手く弾く、それはもう皆様は達成されていることだと思います。これからは、音符の後ろにあるもの、もつと深いもの、何が描いてあるか、どんな気持ちで作曲家は作曲したのか、どうしたら自分の良さ、チェロの音の素晴らしさを生かせるだろうか、作曲家の出身国、その国の芸術文化などを広く勉強してほしいと思います。クラシック音楽、チェロの勉強をすることで、一人一人の可能性、コミュニケーションが深くなり、より拡がっていきます。現在の世の中は、様々な問題があり、辛い時代だと思いますが、お互い共有できるものがあることで、それが究極的には世界平和に結びついていくのではないかと思います。今日は本当に皆様、ありがとうございました。

山崎伸子先生より



△開講式▽

今回も天候が心配でしたが、朝から良いお天気で2日間開催できることを大変嬉しく思います。チェロ・ア

ンサンブルというのは、オルガンのような響きがありますが、このように大勢で集まる機会はとても貴重なので、皆さんのように若い方から集まることのできるこのような催しは本当に良い機会だと思っています。素晴らしい響きを皆さんで共有して、協力して聴きあつて、音楽を作っていく素晴らしい事を、今回経験してください。また、ぜひお友達をたくさん作ることに挑戦してほしいと思います。今日、明日と2日間だけです。例えば自分の中で10人は作ろうとか、明日には何人お友達ができるかなという目標を持って参加いただけたらと思います。

今回この催しを行うにあたって、大勢のスタッフの方が大変な労力を、また東京音楽大学様からも多大なるご協力をいただきまして、心より感謝しております。お母様、お父様方にもチェロや音楽の素晴らしさを味わって帰っていただけたらと思います。

△アイスブレイク▽

参加者からの質問

練習中はお母さんが怖いです。

先生のお母さんお父さんも怖かったですか。

一人の母親としてお答えしますが、まずチェロが嫌いにならないように導くことが基本だと思いますが、大変難しいことだと思います。私も小さい年齢の子を教えています。人様の子どもだったから我慢できることも、自分の子どもは我慢ができない、ということもあります。それについてはお母さんの修行として我慢する。どうしても本人がチェロが嫌いだったら、仕方なくやめる選択肢もあります。が、やめなくても、プロとして続けなくても、やっぱり生涯の友としてチェロが弾けるというのは本当に人生における宝物にしたいと思います。ハ中略何事もそうですが、チェロを続けさせるといふことは良い事だと思います。子どもとの接し方は鉛と鞭をいかに工夫するか。これについてはぜひ学んでいただきたいと思います。

△閉講式▽

私の前に何人もの先生がお話くださいましたので、私はお話することがほとんどありません。ハ中略（参加者に友達ができたか、弾いていて楽しかったかを質問）アンサンブルの演奏を聴かせていただき、やはり小さい子ども達の純真な気持ちで弾く音というのは、ずっと心の中に入っていて、毎回感激いたします。特に今回、このような素晴らしいホールで演奏させていただき、響きが良く、本当に日本は平和であることを痛感します。このような和む空気が、これからもいつまでもあつてほしいと心から思いました。

ジュニア・チェロ・キャンプは本当に良い催しだと毎回感じていますし、これまで9回続いています。来年からもずっと続けていきますので、今回の会でもっと楽しく、いい気持ちで弾けたなら、ぜひ来年も参加してほしいと思います。



昼食時の様子





修了証授与式



合同アンサンブルの演奏



閉講式



ビギナーズ・アンサンブルの演奏

出逢いも、
絆も
チェロの響きのなかに

2026年1月17日(土)・18日(日) 於 サントリーホール プルーローズ

チェロの日

Promotion

ザルスの生誕150年という節目の年です。カザルスはスペイン出身のチェロ奏者、指揮者、作曲家で、チェロの演奏法を確立し、音楽的な功績だけでなく平和活動家としても世界中で知られた人物です。

今回は、スペインに留学され、現地の音楽にも深い親しみを持つピアノスト・西本夏生さんと一緒にプログラムは、カザルスとゆかりの深いスペインの作曲家たちの作品で構成しました。弟子であったカサドの「親愛なる言葉」に始まり、グラナダスの「インテルメッツォ」と「マドリガル」で温かな旋律を味わっていただきます。続くモンボウの「橋」は、カザルス生誕100年に際したスペイン文科省委嘱作品としてチェロとピアノのために作曲されました。静けさの中に宿る祈りのような響きを感じて頂けると幸いです。フアリヤの「七つのスペイン民謡」では情熱的で多彩なスペインのリズムで楽しんで頂ければ嬉しいです。そして最後は、カザルスが生涯大切にしていた「鳥の歌」を。没後半世紀を迎えた今、その心を音に込めてお届けしたいと思っています。



©amigraphy

このたび「チェロの日」に出演の機会をいただき、とても光栄に思います。日ごろからチェロを愛する多くの皆さまと同じ時間を過ごせることに、心から感謝致します。

2026年は、チェロの巨匠パブロ・カザルスの生誕150年という節目の年です。カザルスはスペイン出身のチェロ奏者、指揮者、作曲家で、チェロの演奏法を確立し、音楽的な功績だけでなく平和活動家としても世界中で知られた人物です。

石川 祐支

特に3曲目、マリピエロ作曲の「ソナティナ」は、1982年の生誕100年にヴェネト州のアゾロ村(彼が愛し、長く過ごした地)に招かれて演奏したこともあり、私達にとつては大変思い出深い曲になっています。

た。若い頃イタリアに留学し、その後仕事を建て8年半滞在中、帰国してからも、イタリアでの演奏会や講習会の講師を長年務めるなど、イタリアと縁が深いのですが、演奏会のプログラムという点ではやはりドイツの作品が圧倒的に多く、その次にフランス、ロシアで、イタリアの作品を弾く機会がほとんど無いまま、現在になってしまいました。そのようなこともあり、今回は是非イタリアの作品を紹介したいという気持ちで湧き、イタリアのロマン派から近代のデュオの曲を中心にプログラムを組みました。



林 俊昭

今回、チェロの日で演奏させて頂き、大変有難く思っております。

私は若い頃から妻の林由香子とチェロとピアノのデュオに取組み、3年前に50周年を迎えて各地で記念コンサートを行いました。



Master Class

10月

Steven Isserlis

スティーヴン・イッサーリス

公開マスタークラス

開催日：2025年10月20日（月）
会場：音楽の友ホール（新宿区）
講師：スティーヴン・イッサーリス
通訳：高島まき
受講生：3名 伴奏者：3名
来場者数：173名（会員60名、非会員106名、関係者7名）

Photo：©藤本 崇

S-251 丸山 悦未子

ピアノ：北端 祥人

この度は、スティーヴン・イッサーリス先生のチェロ公開マスタークラスを受講させていただき、ありがとうございました。

憧れのイッサーリス先生、そしてチェロを愛する多くの皆様の前で演奏させていただくことは、大変光栄であり、身の引き締まる思いでした。緊張の中にも、先生がユーモアを交えながら丁寧にご指導くださったおかげで、幸せな気持ちでレッスンを受けることができました。今回、私はショパン作曲《チェロ・ソナタ Op.65》より第2,3楽章を演奏いたしました。この曲を学ぶ中で、音色やフレーズのつくり方に難しさを感じていたのですが、先生から主に2つの大切なポイントを教えていただきました。

一つ目は、フレーズの中でどの音が最も重要なのかを考えることです。これまで「なんとなく」の感覚で弾いてしまっていた自分の演奏が、いかに意識不足であったかを痛感しました。ピアノの和声をよく理解し、その上で大切な音を見極めることで、音楽の方向性がより明確になることを学びました。

二つ目は、右手の使い方についてです。特に緩徐楽章である第3楽章では、メロディを歌うように奏でる滑らかさや、伴奏パートに回った際の音色のつくり方に苦戦していました。右手の技術的な都合で不要なアクセントや強弱がつかないよう、より繊細なコントロールが必要だと感じました。

レッスン中、先生が私のすぐそばでお手本を示してくださったのですが、その一音一音が本当に美しく、まるで夢のような時間でした。私もいつか、先生のように美しい音色で聴く人の心を動かせるよう、これからも精進してまいります。

最後になりましたが、このような素晴らしいマスタークラスを企画・運営くださり、温かいサポートで支えてくださった日本チェロ協会の皆様に、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



S-213 藤原 寛太

ピアノ：諸田 由里子

「Don't be a Cellist !!」

これは、今回私が受講させていただいたスティーヴン・イッサーリス先生のマスタークラスの中で、先生が最も力強くおっしゃっていた言葉です。受講曲に選んだのは、ドヴォルザークのチェロ協奏曲。最初に演奏を弾き終えた後で先生は、「時に英雄のようで、時に詩人のようで、そして他はチェリストだった」とおっしゃってくださいましたが、最初はあまり意味がわかりませんでした。ですがレッスンを進めていく中で、先生のおっしゃるその「チェリストになってはいけない」という意味が、段々とわかってきました。その一番の答えだったのは、先生の演奏です。

今回、私はステージ上のとても近い距離で先生の演奏を聴くことができたのですが、演奏している時の先生は、英雄や詩人、時に人ではなく小鳥のさえずりや郷愁の香りといった、チェリストはおろか人間としての枠をも超えているように感じました。先生はその演奏の秘密を明かすかのように、曲に対する細かなイメージを教えてくださいました。最も印象的だったのが、途中の第二主題、dolce e molto sostenutoの部分についてで、先生は「ドヴォルザークが小さなベッドから体を起こして、早朝の散歩に出掛けている。この部分は、そこで鳴いている小鳥たちの歌なんだ」と教えてくださいました。そして、そのイメージを強く持って弾いた時、私はチェロを弾いているのではなく、表現者という枠を超えた、今まで感じたことのない感覚に浸っていました。そのようなイメージを常に持ちながら、物語をお客様に届けて欲しいと教えていただきました。ずっと「チェロを上手に弾くこと」に集中してしまっていた私でしたが、より自由で大きな世界に目を向けることができるようになったと思います。

このような素晴らしいマスタークラスを企画、参加の機会をくださった日本チェロ協会の皆様に、心から感謝を申し上げます。



開催報告

2025年10月20日(月)スティーヴン・イッサーリス氏を講師に迎え、受講者3名によるマスタークラスを音楽の友ホールにて開催いたしました。平日の夜にもかかわらず、全国各地から多くの学生やチェロ愛好家がイッサーリス氏のご指導にご関心寄せてくださり、聴講チケットは事前に全席完売、キャンセル待ちとなりました。現代最高のチェリストの一人として比類のない多彩な活動を展開しているイッサーリス先生の公開レッスンは、3部に分かれ、休憩を挟みながら各部45分ずつ行われました。

最初の受講生は、東京音楽大学に在学の藤原寛太さん。ドヴォルザークの《チェロ協奏曲 口短調 作品104 第1楽章》を演奏されました。第2部は東京藝術大学音楽学部 に在学の丸山悦未子さんにより、ショパンの《チェロソナタ 短調 作品65 第2、3楽章》を。第3部に登場いただいたのは桐朋学園大学に在学の村上真璃南さん。シューベルトの《アルペジョーネソナタ 第1、3楽章》を演奏いただきました。

「普通のチェリストにならないように。他の音も聴きハーモニーを大事に、物語の語り手のように。」等、心に残る指導のお言葉の数々を始め、瞬時に受講生の演奏の課題を見極め、細部にわたる技術的なアドバイス、作品の解釈やイメージの描き方などを先生が説明なさるたび、作品の魅力がより引き出されていきました。先生ご自身によるチェロ演奏を交えながらのご指導を通し、各受講生の演奏が変化していく瞬間にお立会いくださった聴講生の方々にとっても、沢山の学びを得た時間だったことと思います。閉講後には、聴講生の方から「イギリスの文化に裏打ちされた表現力とユーモアとエネルギーに溢れたご指導ぶりに、大いに刺激を受けました」等のお声も頂きました。

日本チェロ協会では、引き続き多くの方が待望するマスタークラスを開催して参りますので、次回もより多くの皆様に足をお運び頂けることを心より願っております。



S-280 村上 真璃南

ピアノ：吉武 優

この度はスティーヴン・イッサーリス先生のマスタークラスを受講する機会を頂きありがとうございました。アルペジョーネソナタは大好きな曲ですが本当に難しく、少し緊張して弾いていたところ、もっと上を向いて！あなたが楽しんで弾かないと聴いている方も楽しくならないよ、と言われ、思い切って楽しく弾く覚悟を持つ事ができました。また、無意識につけてしまっていたアクセントを指摘され、それに気をつけて弾くとすごく音楽の流れがよくなる事を実感しました。曲の中で物語の場面が変わる時の呼吸、フレーズの中で一番大切な音は何かを常に考える事や、弓の使い方、量をもっと考える事などを教えて頂きました。特に弓については、この部分は弓が踊っているように弾きなさい、弓は生き物だと思って扱いなさいと言われた事が印象に残りました。

受講時間の後半は良くなってきた！と褒めて頂き、イッサーリス先生と一緒に弾いてくださり、ピアノの吉武先生と3人で演奏する形になったときには、なんて幸せな時間なのだろうと思いながら演奏し本当に楽しかったです。

受講後、イッサーリス先生から、言った事にすぐ反応できていてよかったよ、と言って頂きましたが、チェロという楽器を使って物語を語る人でいなければならない、オケやピアノの音全てを理解し、調性を理解している事、アクセントの種類、ビブラートの種類は語りたい内容によって変える事、という先生の言葉を大事にして、受講した内容が身につくように練習を重ねていきたいと思います。

最後に、私は中学生の頃、毎年チェロ協会主催のチェロキャンプに参加しておりました。キャンプでの勉強で仲間もでき、益々チェロを弾く事が楽しくなり、協会主催の今回のマスタークラス参加へと繋がっている事を本当に有り難く思っております。協会の関係者の皆様が優しい心配りをしてくださったおかげで不安なく演奏することができました。心より感謝申し上げます。





アウトリーチ実施報告



日時：2025年8月20日（水）

実施場所：国立病院機構千葉医療センター リハビリ室

参加者：山本 裕康、西谷 牧人、瀬戸 真愛、丸山 悦未子

プログラム：白鳥（4本のチェロのための）／バリエール：2本のチェロのためのソナタより第3楽章／フィツェンハーゲン：アヴェマリア／猫ふんじゃった変奏曲／浜辺の歌／ふるさと（アンコール）

R-704

山本 昭夫

チェリスト四人が、大切な楽器を抱え、ゆつくりとエスカレーターで二階へと上がっていききました。通りかかった人の目が、自然とチェロへと引き寄せられ、驚きと憧れ、ときめいた様子が見受けられます。院内に音楽会の予感が漂いはじめます。演奏会用のイスが置かれたリハビリ室に、一人また一人と患者の皆様が看護師の皆様に支えられながら集まりました。業務の合間を縫って医療従事者の皆様も集まりました。開演直前には椅子の設置スペースが埋まり、コンサートは始まりました。客席には、車椅子の方や、カテーテルを身体につなげている方々の姿が見られました。中には長椅子に身体を横にしている方もいらっしゃいました。目測で70名を越える聴衆が集まり、チェロカルテットは、クラシックから唱歌まで30分間の演奏を行いました。チェロの弦楽四重奏は、クラシックをよく聴かれる方でもなかなか生演奏で聴くことはありません。院内コンサート途中体調に異変が起きて看護師に介抱される方もいましたが、4台のチェロをじっと見つめ、一音一音を大切に受けておるといふ静かな情熱が伝わってききました。

様々なご事情から長く入院生活を送られている方々が「浜辺の歌」や「ふるさと」を口ずさんでいる姿は、身体がまだ自由だった若かりし頃を思い出しているようでした。

演奏会の時間は、まるで一瞬の出来事のように過ぎ去りましたが、その音色は深く人々の胸に染みわたる、心に長くその温もりを残します。病室の日常に戻った後でも、「浜辺の歌」や「ふるさと」を口ずさんだり、サンサインスの白鳥をYouTubeで視聴していたことでしょう。

深く豊かな音色に包まれながら、その響きの中に人生の軌跡を重ね、若い世代とはまた違う感動と解釈を見出されていたと思います。人生を経験したからこそわかる曲や歌詞の意味、人生に与えるその曲や歌のメッセージを受けとめられます。長い歳月を歩んでこられた心に、音楽がそっと寄り添い、静かに語りかけていたようでした。

終演後の片付けのとき、「私もフルートを演奏します。」と看護師の方が気恥ずかしさと喜びの交錯する笑みでおっしゃいました。今回の演奏会が医療従事者の皆様にとっても憩いの時間になったと確信した瞬間です。



【参加者数】講師：1名、アンサンブル参加者（内クリニック受講生：2名）：27名、聴講：10名、スタッフ：4名
合計42名（会員：36名・非会員：4名・事務局：2名）

R-692 西尾 文和

新倉先生の奏でる音楽のアバンギャルドさと、夏の演奏会「欧亜を駆ける」で垣間見た自分の知らない国への憧れにインスパイアされ、チャイコフスキーの「感傷的なワルツ」をみて頂きました。チェロの技術的なご指導以上に、自分にとっての学びは、アンサンブルすることの大切さでした。音楽の流れに乗り、伴奏者とお互いを感じながら、掛け合いの中で音を紡ぐことの広がりを楽しませて頂きました。日頃、チェロを弾くことだけに意識が向かい、音楽そのものを聴くことを忘れていたことに気づかされました。これからは、音楽全体を考えてチェロを弾くという自分のチャレンジも得ることが出来ました。先生のアドバイスに含まれる音楽への向き合い方、表現することのすばらしさ、自由さ、その奥にある神秘的な瞬間を体験する貴重な学びの機会に、心より感謝申し上げます。ビバ・チェロ・クリニック！

Cello Salon

チェロ・サロン 開催報告

2025年9月28日（日）に、サントリーホールのリハーサル室で、新倉瞳先生主宰による50回目となるチェロ・サロンが開催されました。クリニックは、平野千世さん（R-329）、西尾文和さん（R-692）が受講され、各々が課題とする技術的な悩みについて具体的な練習法や演奏する際の心構え等を教えていただきました。アンサンブル曲はアザラシヴィリ作曲《無言歌》を新倉先生自ら参加者の演奏進度に合わせ編曲くださいました。講座中は質問が大変活発に飛び交い、互いの音を聴き合いながら一緒に音楽を創り上げるその過程こそが参加者にとって大きな収穫になったのではないのでしょうか。技術的なこと他に、アンサンブル演奏する上で大切な耳のつかい方、意識の向け方、音量のバランスにおける手がかりを丁寧にエピソード等を交えながら伝授くださり、短い時間ではありましたが、目に見える程アンサンブルの響きが豊かになっていきました。

主宰くださった新倉瞳先生にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。

事務局からのお知らせ

2025 年度主催イベントのご案内

■チェロ・サロン

日時 2026年2月7日(土)
会場 サントリーホール リハーサル室
講師 山本 裕康

参加申込締切 2025年12月20日(土)

聴講申込締切 2026年1月31日(土)

■第14回チェロの日

日程 2026年1月17日（土）、18日（日）
会場 サントリーホール ブルーローズ

Day1 チェロと仲良くなるコンサート

日時 2026年1月17日（土）14：30 開演
第1部 石川 祐支（チェロ）、西本 夏生（ピアノ）
第2部 デュオハヤシ（林俊昭 | チェロ、林由香子 | ピアノ）

Day2 チェロでひとつになるコンサート

日時 2026年1月18日（日）14：00 開演
第1部 池田 虎之介・宮之原 陽太（チェロ）
第2部 チェロ・オーケストラ 山本 祐介（指揮）

公演詳細については、決まり次第
ホームページにてご案内いたします。
www.cello-congress.com



チケット取り扱い：

サントリーホールチケットセンター
TEL：0570-55-0017
※10:00～18:00 休館日・年末年始は休業
※会員席はサントリーホールチケット
センター窓口及びTELのみで販売します
<https://suntoryhall.pia.jp/info/info-250303.jsp>



各種手数料

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェリストを探す

公演情報



チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。

一般財団法人 日本チェロ協会（JCS NEWS）第66号

2025年11月28日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 秘書箱509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤 剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム